

2-(15) CAT/ILL 共同事業構想の歴史と課題

国立情報学研究所開発・事業部コンテンツ課課長補佐

相原 雪乃

1. はじめに

目録所在情報サービスは、昭和 60 年(1985)の運用開始から 22 年目を迎えた。この間、参加館数、データベース登録件数はともに拡大し続け、参加館数 1,145、図書書誌レコード 740 万件、図書所蔵レコード 8,294 万件、雑誌書誌レコード 29 万件、雑誌所蔵レコード 419 万件(平成 18 年 3 月末現在)の世界最大の日本語書誌データベースとなった。目録所在情報サービスは、学術審議会の答申を受けて整備された学術情報システムの中核を成すものであり、学術情報の整理提供により我が国の研究活動を支援促進し、書誌ユーティリティ機能により図書館業務の効率化を図ってきた。この講では 20 年の歴史を振り返り、現在および今後の課題について解説する。

2. 目録所在情報サービスの始まりと理念

- ・ 学術審議会「今後における学術情報システムの在り方について(答申)」(昭 55 年(1980)1 月)

学術情報システムの構築 → 学術情報の集成と提供のシステムを整備

→ 研究成果を広く世界に提供し国際的な学術情報流通の一翼を担う

- ・ 目録所在情報サービスとは
オンライン共同分担目録作成
ILL メッセージ交換

3. 今日までの活動と成果

昭 60 年(1985)4 月 目録所在情報サービス運用開始

昭 63 年(1988)1 月 雑誌目録システム運用開始

平 4 年(1992)4 月 ILL システム運用開始

平 9 年(1997)11 月 新 CAT サーバ運用開始

平 10 年(1998)4 月 新 ILL サーバ運用開始

・ NACSIS-CAT

- ・ Webcat 公開
- ・ 多言語対応
- ・ 遡及入力事業

・ NACSIS-ILL

- ・ 外部依頼機能
- ・ ILL システム間リンク
- ・ 料金相殺制度

4. 課題

- ・ 総合目録データベースに対する意識の変化
 - ・ 目録レコード重複率・ILL 謝絶率の増加にみられるサービスの品質低下
 - 書誌ユーティリティ課題検討プロジェクトでの検討と NII アクションプラン
- ・ 図書館における目録作成体制の変化
- ・ 新たなビジョン・理念

5. おわりに

国立情報学研究所では、現在、「最先端学術情報流通基盤」の構築に取り組んでいる。学術情報システムで構築された基盤をさらに発展させ、「連携」をキーワードに、大学、研究機関、学協会、産業界等の学術コミュニティを巻き込んだ次世代の学術情報流通基盤の形成を行うものである。その基盤においては、目録所在情報のみならず大学等が発信する学術情報（機関リポジトリ、メタデータ）も整備構築してゆくこととしている。これらの学術情報を共同構築、共同利用するという考えは目録所在情報サービスにおいて培われた精神が生きていると言える。

今後も目録所在情報は、研究活動を支える最大のコンテンツ基盤として質の高いデータを提供しつづける必要があることに変わりはない。現在図書館を取り巻いている環境及び今後予想される環境の中でこの使命を遂行するためには、大学等参加館と NII は共同で新たなビジョンを打ち出すことに取り組みねばならない。

参考資料

- ・ 宮澤彰著『図書館ネットワーク：書誌ユーティリティの世界』（情報学シリーズ 5）、丸善株式会社（2002.3）
- ・ オンライン・システムニュースレター No.70 『特集：学術情報センターの目録所在情報サービス』（2000.3）（最終アクセス 2006.5.19）
(http://www.nii.ac.jp/CAT/ILL/contents/nletter_0170.html)
- ・ 森本英之著、越塚美加訳『北米地域大規模学術図書館における目録作成業務：現状および将来展望』 情報の科学と技術 46(3) p.142-148 (1996.3)
- ・ 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会『学術情報基盤の今後の在り方について（報告）II.学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について』（2006.3）
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/06041015.htm)（最終アクセス 2006.5.19）